

平成 30 年度東京都手話通訳者等養成講習会
受講生選考試験・一次試験全クラス共通筆記問題

1 下記の文章の内容が正しいものには○、間違っているものには×を付けなさい。

- (1) 北海道は 2017 年 9 月、手話を言語として施策を推進する条例と、要約筆記や点字など、多様な意思疎通手段を普及・促進する条例の 2 つをそれぞれ制定することを決めた。
- (2) NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) は、聴覚障害者がいつでもどこの劇場でも映画を楽しめるようにとの取り組みを映画業界全体と一緒に進めており、一部の邦画の字幕を専用眼鏡で見ることができるアプリの配信を始めた。
- (3) ろうあ児施設の金町学園は 2018 年 3 月に 86 年の歴史に終止符を打ち、閉園される。
- (4) 日本初の公衆電話型電話リレーサービス「手話フォン」は昨年 12 月 3 日に羽田空港に設置された。次いで 12 月 4 日に筑波技術大学に設置され、2 月 5 日にも同様の事業として兵庫県明石市に設置された。
- (5) 世界ろう連盟の第 3 回国際中間会議は昨年 11 月ドイツ・ベルリンで開催された。「ろう児が手話言語で教育を受ける権利について」などのテーマに沿った数々の事例発表より、それぞれ学びを深めた。

2 次の文の () にあてはまる最も適切な語句を下の A～Tの中から選び、文を完成させてください。

- (1) 2017 年 3 月 1 日から (①) で全国発の盲ろう者専用のグループホームが誕生した。(②) では、盲ろう者それぞれの障害の特性に配慮した環境で、家事をはじめ日常生活がおこなえるようサポートする。盲ろう者についての知識のあるスタッフ 10 名が交代で 24 時間常駐している。
- (2) (③) は、聴覚障害者がスマートフォンやタブレット、パソコンなどのテレビ電話 (スカイプ等) を使って、手話や文字を送信し、画面の向こうにいるオペレーターを通して聞こえる人に電話をするためのサービスだ。2016 年 12 月時点で聴覚障害者情報提供施設 3 施設と (④) の 6 事業者のいずれかと契約して利用するもので、利用登録者は 5,000 人を超えている。
- (3) 全日本ろうあ連盟創立 70 周年の、2017 年の第 65 回全国ろうあ者大会の開催地は (⑤) で開催された。秋篠宮同妃両殿下や (⑥) の理事、マカオや韓国、香港のろう協会代表者が臨席された。
- (4) 2017 年 8 月に、広島県で開催された第 50 回全国手話通訳問題研究討論集会和同時に、全国手話通訳問題研究会の青年の組織 (⑦) のつどい 2017 in ひろしまが併催された。2018 年の全通研集会は (⑧) で開催される。
- (5) 夏季デフリンピックはトルコの (⑨) で開催された。11 競技に臨んだ日本勢 108 人の選手は過去 (⑩) 27 個のメダルを獲得した。

A=イスタンブール	K=青梅市
B=最多	L=N-A c t i o n
C=電話リレーサービス	M=公的機関3機関
D=世界ろうあ連盟	N=北海道
E=a-n a t i o n	O=最多タイ
F=大阪市	P=たましろの郷
G=すまいるレジデンス	Q=沖縄
H=全日本ろうあ連盟	R=民間事業所3社
I=代理電話	S=福岡
J=サムスン	T=宮城

3 次の事柄にかかわる語句を下の A~Eの中から選びその記号を記入してください。

- (1) 聴覚障害者運動における手話通訳要求。1950（昭和25）年、身体障害者福祉法の施行とともに打ち出された。
- (2) 身体の部分的欠損または身体の機能の損傷を直接的に補うことで、日常生活能力の回復に寄与する用具。
- (3) 専門性の高い意思疎通支援をおこなうものの養成研修事業。専門性の高い意思疎通支援を行う者の派遣事業。意思疎通支援を行う者の派遣に係る市町村相互間の連絡調整事業。
- (4) 文は形態素に分けることができ、形態素は音に分けることができる。音素の数には限りがあるが、音から形態素を作り、形態素から作ることで、作ることができる文の種類は無限大にある。
- (5) この類別辞はものの特徴を手の形や動きで表すもので、世界中の手話に共通してみられる言語事象。ただ、どの特徴にどの手の形や動きを対応させるかの基準は手話によって異なる。日本の手話でも〈飲む〉は実際に飲むときに使う容器の特徴によって異なる類別辞が使用される。

- | | |
|--------------------|------------|
| (A) 都道府県必須事業 | (D) C L 構文 |
| (B) 二重文節 | (E) 補装具 |
| (C) ろうあ者専門の福祉司設置要求 | |

地域・指導は設問解答方式

特別クラスは全文書き取り（問 1 のみ）

読み取り 1 番 「オリンピックのマスコット」

2020年東京オリンピック・パラリンピックのマスコットに、大会エンブレムの市松模様を取り入れたキャラクターが選定された。

オリンピックのマスコットが初登場したのは1968年グルノーブル冬季大会で、非公式だが「シュス」と呼ばれる謎のスキーヤーがお目見え。正式な採用は1972年ミュンヘン夏季大会のダックスフント「バルディー」以降という。

開催地ゆかりの動物などをモチーフにしたマスコットは、今ではオリンピックに欠かせない存在だ。

東京オリンピックを巡っては国立競技場の設計やエンブレムのデザインなどトラブルが相次いだだけに、マスコット選考は入念に行われた。最終3候補に絞り、オリンピック初の試みで全国の小学生たちによる投票に委ねたのは面白い。

マスコットには児童らの大会成功への願いが込められた。

「設問」

1. 2020東京オリンピック・パラリンピックのマスコットに大会エンブレムの何をとり入れたキャラクターに決定しましたか
2. オリンピックのマスコットが初登場したのは何年ですか
3. 初めて正式にマスコットが採用されたオリンピックはどこで開催されましたか
4. 初めて正式に採用されたマスコットの名前は何ですか
5. 2020年東京オリンピックのマスコットはどのように選考されましたか

地域・指導は設問解答方式

読み取り 2 番 「電化製品」

皆さんの家にある家電やパソコンなどの電化製品は購入してどれくらい経ちますか？
新社会人となり、新たな生活の準備に家電などの電化製品を揃えた人はまだまだ新品同様でしょうか。

家電や自動車、家具といった、1 度購入すれば長期間使用することができ、比較的高額なものを「耐久財」といいます。内閣府は、毎年 3 月に主な耐久財の買い替えるまでの使用年数を 2 人以上の世帯対象に調査しています。最新の調査によると、エアコン 13.6 年、冷蔵庫 13.3 年、洗濯機 10.2 年と、10 年を超える耐久財が多くあります。また、2000 年代半ばには買い替えサイクルが 5 年未満と比較的短かったパソコンやカメラも使用年数が長期化しています。さらに、ここ 2～3 年の動向をみると、どの商品も使用年数が長期化しています。

「設問」

1. 1 度購入すれば長期間使用することができ、比較的高額なものを何と言いますか
2. 内閣府で行っている調査の対象者は誰ですか
3. 調査で 13.3 年と結果が出た電化製品は何ですか
4. 調査の結果洗濯機は何年でしたか
5. 2000 年以降買い替えサイクルが長期化してきている商品はカメラともう一つは何ですか

「大蔵村の雪だるま」 (1 分 28 秒)

山形県大蔵村では雪がたくさん降ります。村には今も高さ 3 m ぐらいの雪が残っています。村は毎年、道の雪がなくなって旅行に来る人が増える頃になると、大きな雪だるまを作ります。

今年は雪を 3 0 0 0 t 以上使って、高さが 1 2 m、体の周りが 7 8 m の大きな雪だるまを作りました。体には去年 4 月から村を走っているバスの絵が描いてあります。全部出来るまで 2 週間かかりました。

大蔵村観光協会の人「たくさんの人に見にきてもらいたいです」と話していました。いつもの年は 6 月中旬頃まで大きな雪だるまを見ることができます。

「入浴中などのヒートショック」 (1 分 44 秒)

入浴は体が温まって血行がよくなり、気分をリラックスさせてくれます。湯船につかる習慣のある日本では、浴室は日々の疲れを取り、体を癒やしてくれる場です。しかし、家庭の浴室でヒートショックによる急死が多く発生しています。ヒートショックが関連した入浴中の心肺停止者数は、気温が低下する 10 月ごろから増えて 1 月が最も多くなっています。

ヒートショックは、暖かい室内から寒い廊下やトイレに移動したり、寒い脱衣所で着替えた後、温かい湯船につかったりするなど、急激な温度変化によって血圧が大きく変動することで起きる健康被害です。東京都健康長寿医療センターの調査によると、2011 年にヒートショックによって入浴中に死亡した人は、約 1 万 7 000 人と推定され、その数は交通事故の死亡者より多くなっています。

試験官は受験者に対し、以下のテーマを手話で伝えます。

- (1) あなたが考える理想の手話通訳者像とはどんなものですか？
- (2) 健聴者と聴覚障害者のズレをどう指導しますか？
- (3) 今、高齢化社会伴う 8 0 5 0 問題が話題に上がっていますが、あなたはこの問題をどう思いますか？

《参考》 8050 問題」とは、ひきこもりの長期化などにより、本人と親が高齢化し、支援につながらないまま孤立してしまうこと。1980 年代に「ひきこもり」が社会問題となったが、30 年たった今、当時 10 代～20 代だった人が 40 代～50 代になり、親の世代が 70 代～80 代と高齢化し、深刻な問題になっているのだ。